

2012.1.27 哲学セミナー

「高齢者ドライバー問題 を考える」

●企画・進行：三浦隆宏

「問題を発見する」ことのほうを、その対策を講じることよりも尊ぶところが、哲学はある。まだ社会的には問題として十分認定されていない事柄を、一箇の「問い合わせ」としていち早く定式化すること、その優れた先見の明の持ち主が今回のセミナー講師奥田さん。煙草や産業廃棄物、内部告発の倫理的問題についてこれまで取り組まれてきたことは知っていたが、今回のテーマも実は10年ほど前から考えられていたそうだ。

狙いは当たったと言えるだろう。「車についての話題は最初ピンとこなかったけど、スライドを見ているうちに、集中して聞いてしまった」「高齢者ドライバー問題を通して、もっと交通に関する大きな問題を投げかけていたのがすごく良かった」「事故を起こさない車のあるべき姿まで掘り下げた意見があつてよかったです」など、好意的な感想がいくつも寄せられた。「実際に家族で相談して、祖父から免許証を取り上げた」という体験談や、「そもそも車が一人で乗れることがおかしい。二人でしか運転できない車を開発すべきではないか」という「助手席」のあり方を問う意見も出て、車社会かつ高齢社会日本のこれからを考えるうえで、良いきっかけとなったように思う。

「Everything is made from a dream.」、ミスチルの曲名でもあるこの言葉がスライドの最後に出てきたとき、思慮の浅い私はどうしてもこれをセミナーのオチにしてしまいたいという誘惑に最後まで勝てなかった。まあ、奥田さんは次回「ミスチル」を題材にして哲学セミナーを開いてもらう、ということでよしとしよう。(笑)(みうら たかひろ／福山女子大学人間関係学部講師)

賛助会員募集！

カフェフィロでは、活動に賛同し応援してくださる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター『哲学喫茶瓦版』を送付させていただきます。また、カフェフィロが主催する有料セミナーを特別価格で受講していただけます。

年会費 1口 3,000円

お問い合わせ先

info@cafephilo.ne.jp (カフェフィロ事務局)



●話題提供者：奥田太郎

今回、哲学セミナーを担当して印象に残ったことは、あの会場のもつている、参加者が何か話したくなるような雰囲気でした。会場の構造とか、座の組み方もある程度あるのかもしれません、あの場所でこれまで行われて来た数々の取り組みの蓄積が、ある種の磁場としてそうさせているのかなあと感じました。

話題の進行については、個人的にはもっとあっちこっち行って混乱している方が面白いと思っていたのですが、参加者の感想を見る限り、ある程度交通整理をしながら進めることも必要なだとわかりました。もう少し事前に三浦さんと打ち合わせをしておく必要もあったかな、とも思いましたが、予定調和を嫌う哲学漫才コンビとしましては、あれでよかったのだろうと思っています。次にまたあの場で何かをする機会がありましたら、もっとシンプルに話題と論点をしぶって、よりインラクティブにやりたいと思っています。ですので、また呼んで下さい。今後ともよろしくお願い致します。(おくだたろう／南山大学社会倫理研究所准教授)

中之島哲学コレージュ

京阪電車なにわ橋駅構内のコミュニティスペース「アートエリアB1」で大阪大学CSCDが開催しているトークプログラム「ラボカフェ」のなかの一シリーズ。新しい哲学の発信・交流を目指し、毎月2~3回、哲学カフェ、セミナー、書評カフェなどを開催している。カフェマスター：本間直樹 共催：カフェフィロ お問い合わせ先：college_info@cafephilo.jp

CAFÉ PHILO (カフェフィロ)

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足。哲学カフェ、哲学対話セミナー（子ども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。「社会のなかで生きる哲学」のあり方を探り、それを実現するとともに、哲学とともに生きる人たちをサポートする組織です。

〒537-0023

大阪市東成区玉津3丁目8-6ロイヤル丸文II 406号室 たまてばこ内
e-mail : info@cafephilo.jp

<http://www.cafephilo.jp>

哲学喫茶瓦版

NEWSLETTER FOR PEOPLE LIVING WITH PHILOSOPHY FROM CAFÉ PHILO

2012

3

特集：オーダーメイドの哲学対話

-case1 豊中人権まちづくりセンター

-case2 淀川キリスト教病院

Rookies! 小菅雅行さん（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程）

中之島哲学コレージュ：哲学セミナー「高齢者ドライバー問題を考える」



【写真】2012.1.26 豊中人権まちづくりセンター

「福島の農産物を避ける事は差別か？」（進行：小菅雅行）

地域の人で集まってこんなテーマで考えてみたい、「講師を招いて公開講座を開いているけれど、来てくれた人が自分自身で考える機会もほしい」、「職場の人同士で考えを交換しあう機会がほしい」、「少人数のグループに分かれてじっくり話し合いたい」。そんなニーズにこたえるため、地域のNPOや財団法人が開く公開講座、医療関係のシンポジウム、社員研修のグループワークなど、二〇一一年度はべ三十七名の進行役が派遣された。進行役が好きなとき、好きな場所、好きなテーマで開くカフェフィロ主催の哲学カフェとはちがい、依頼主が希望するテーマと場所で対話づくりを応援する。オーダーメイドの哲学対話だ。

社会のなかで生きる哲学を。その思いを支えるのは、正会員を中心とした進行役ネットワーク。関心のあるテーマ、進行の仕方、住んでいる場所、年齢、性別・・・いろんなタイプの進行役を擁しており、依頼者の希望に応じてふさわしい進行役を紹介できる。テーマに応じてだけでなく、子ども対象のワークショップには子どもとの対話経験が豊富な進行役を、まちづくりと関連したイベントなら継続して関わることができる進行役など、さまざまな観点から進行役を。グループに分かれて少人数で話し合ったいときには、グループの数だけ進行役を派遣することも可能だ。

ご依頼・お問合せは、カフェフィロ事務局まで。

オーダーメイドの哲学対話 依頼者の声

CASE 1

市民が自分で考える 新しい人権講座

豊中人権まちづくりセンター

Q1. カフェフィロにどんな依頼をしていますか？

豊中人権まちづくりセンターでは、市民講座の枠を使って年2回ほど哲学カフェを開催しています。「レディースデーは差別か?」、「福島の農産物を避けることは差別か?」など、日常的に身近な問題や出来事などを通じて、その中に隠された差別や人権の問題について参加者と共に考え、気づきの機会となることを目指しています。テーマはもちろん、狙いや目的などについてもカフェフィロの進行役の方と相談して決めています。

Q2. カフェフィロに對話の進行を依頼ようと思った理由は？

これまで豊中人権まちづくりセンターでは、部落問題を始めとする様々な差別や人権問題について、多くの市民に知りたい、他人事ではなく自分事として考えていただくことを目的に講座や学習会を開催してきました。そして、「市民は人権問題についてどのように考えているのだろうか?」、「自分の事として考えてもらうにはどうすればよいのか?」といった思いから「講師を招いてお話を聞くだけでなく、参加者同士が差別や人権問題について議論できる方法はないか?」と常々考えていました。

そんな中、決められたテーマについて進行役を交えながら参加者同士が議論をおこなうといったスタイルでおこなうイベントをカフェフィロさんが様々な場所で定期的に開催しているということを知り、進行役を依頼しました。老若男女問わず誰でも気軽に参加でき、発言できる「哲学カフェ」は、「難しい」、「分かりにくい」といった印象を持たれことが多い差別や人権問題について考える場に相応しいと思ったからです。

Q3. 実際に進行を依頼してみた感想は？

参加者それぞれが人権問題に関するテーマについて、じっくり考え、意見を述べ合うことができ、また、約2時間の議論を

とおして、これまで気づくことができなかつた新たな発見がいくつもありました。もちろん、テーマに対する捉え方や考え方はそれぞれですから必ずしもこちらの狙いどおりに議論が進むとは限りません。しかし、参加者の何気ない発言や問題提起などをきっかけにして、こちらが想像していた以上に深い議論ができることもあります。それが哲学カフェの特徴であり、魅力でもあると思います。

(談:重本洋輔さん／とよなか人権文化まちづくり協会職員)

CASE 2

事例から一歩離れ、 視野を広げてみる研修

淀川キリスト教病院

Q1. カフェフィロにどんな依頼をしていますか？

淀川キリスト教病院では、2003年より看護職の倫理的感受性を育むため、日々の看護の中でジレンマと感じる事例を取り上げ、臨床倫理検討シートを用いた事例検討を院内看護師で行ってきました。2009年度からはカフェフィロの協力を得て、事例検討と交互に事例から得たテーマに沿って議論する「倫理カフェ」を開催しています。「倫理カフェ」では10人程度のグループに分かれ、看護師が普段何気なく使用している言動を掘り下げて、言語化して意味を見出せるように進行して頂いています。

Q2. カフェフィロに對話の進行を依頼しようと思った理由は？

臨床倫理検討シートを用いた事例検討では、看護師という立場（価値観）で検討するため、患者・家族や医師などの他職種の対立だけが問題となったり、自分たちのケアにネガティブな印象をもつたりすることもありました。そこで、看護師というだけでなく個々の価値観など視野を広げて物事を捉えるように、第3者の立場として、カフェフィロのメンバーに参加していただくことになりました。

Q3. 実際に進行を依頼してみた感想は？

色々な意見を聞きながら同じ看護師でも個々の価値観や信念に触れることができ、新たな発見をすることがあります。また、日々の忙しい生活の中でも、この時間は自分と対話しているような感覚で、自分についても考え、振り返ることができます。相手の存在というものを意識することができるようになりました。カフェフィロの方の進行は、堅苦しくなく話しやすい雰囲気を作ってくれるので、毎回楽しく参加できます。

今後、「倫理カフェ」だけでなく、臨床倫理検討会へのご意見やご助言もお願いしたいと考えています。

(談:椎野育恵さん／淀川キリスト教病院看護師)

Rookies!

小菅 雅行さん (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)

東京大学文学部、京都大学大学院、システムエンジニアを経て「哲学を実践の場に活かしたい」と大阪大学臨床哲学研究室へ。サイエンスコミュニケーションに関する研究に携わる一方で、哲学カフェの進行役、中之島哲学コレージュのスタッフなども行う。



撃を受け流してまた投げたりとか、かためたりとかするんです。その姿勢は通じるところがあると思います。

もうひとつの理由は、ほっとくと自分でしゃべりたくなってしまうので、その自分の気持ちをおさえるためにそういうふうにしてるというのもあると思います。

—参加者になると結構しゃべるタイプということですが、進行役やスタッフとして活動するときの原動力は？

単純にその場にいた人が楽しんでくれること。それに勝ることはないとっています。進行役という立場でも、会場でサポートしたり運営したりする立場でも、いつもいかに会場に来た方に楽しんでいただくかを意識してやっています。

(聞き手: 松川絵里)

2011年11～2012年1月 カフェフィロ活動一覧

- 11月8日 哲学カフェ「型と個性」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
11月9日 哲学カフェ「なぜ、就活生はリクルートスーツを着るのか？」 アートエリアB1 三浦隆宏
11月19日 哲学カフェ「男らしさ、女らしさって？」 とよなか国際交流センター 山本聖人
11月19日 哲学カフェ「平等」 Café Klein Blue 寺田俊郎
11月20日 哲学カフェ「ボランティア」 コーヒーショップJUN 藤本啓子
11月22日 在日外国人との語り合いカフェ4 大阪大学CSCDオレンジショップ 本間直樹
11月24日 テツドク！：浜田寿美男『身体から表象へ』さする庵 玉地雅浩
11月25日 セミナー「ワークライフバランスから“働く”を考える」 アートエリアB1 日蘭学生会議
11月27日 哲学セミナー「老い衰えゆくことの発見（1）—できなくなる身体—」 アートエリアB1 天田城介 西川勝
12月3日 哲学対話入門：ネオ・ソクラティクダイアローグ（NSD）を体験しよう とよなか国際交流センター 本間直樹
12月4日 哲学対話入門：ネオ・ソクラティクダイアローグ（NSD）を体験しよう とよなか国際交流センター 本間直樹
12月7日 哲学カフェ「年をとるとできることは？」 アートエリアB1 赤阪辰太郎
12月10日 教師IDOBATA カフェ 大阪大学CSCDオレンジショップ 岡田結衣 松川絵里
12月10日 哲学カフェ「学校ってどんなところ？」 カフェサンナミジ 辻明典
12月11日 哲学カフェ「学校教育と個性」 Café Klein Blue 寺田俊郎
12月14日 哲学セミナー「超高齢社会—どっちつかずの身体たちが形づくる社会」 アートエリアB1 天田城介 西川勝
12月18日 哲学カフェ「アートを学ぶということは？」 カフェアンリ・ファーブル 井戸貴子
12月23日 哲学カフェ「忘れていいこと」 さする庵 桑原英之
1月9日 カフェフィロセミナー「こどもとする哲学対話」 とよなか国際交流センター 高橋綾 金澤正治
1月10日 哲学カフェ「どんなテーマでも哲学できる？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
1月11日 哲学カフェ「人生って、あっという間？」 アートエリアB1 桑原英之
1月15日 哲学カフェ「あまり困っていない身近な人と、とても困っている遠くの人と、どちらを助けるか？」 コーヒーショップJUN 森本誠一
1月21日 哲学カフェ「幸せとは何か」 Café Klein Blue 寺田俊郎
1月23日 テツドク！：フーコー『真理とディスクール』さする庵 松川絵里
1月25日 在日外国人との語り合いカフェ5 大阪大学CSCDオレンジショップ 本間直樹
1月26日 哲学カフェ「福島の農産物を避けることは差別か？」 豊中人権まちづくりセンター 小菅雅行
1月27日 哲学セミナー「高齢者ドライバー問題を考える」 アートエリアB1 奥田太郎 三浦隆宏

